

平成26年度 学校自己評価表 4段階評価(A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

自己評価 評価基準

A:達成できた(A≥100%) B:ほぼ達成できた(80%≤B<100%)

C:もう少し(60%≤C<80%) D:できていない(D<60%)

評価項目	評価計画			自己評価		改善方法	
	年度重点目標	具体的方策	評価項目・指標	目標値	達成度		評価(3月)
教務	基礎学力の向上	長期休暇時に宿題を配布し、校内基礎力テストを各学期で実施する。 校内基礎力テスト実施後、7限基礎力講座を実施する。 各学期毎に習熟度上位と下位の2講座を実施し、より細やかな指導を行う。	基礎力テストの平均点 10点アップ	100%	80%	B	全体の平均点は8点アップにとどまったが、偏差値は確実に伸びている。
	教員の授業力向上	「新任教員授業日誌」を実施し、先輩教員からの指導、助言による授業力向上を図る。 また、「授業参観シート」を活用し全教員の授業参観を促す。	全教員が毎月1回以上の授業参観を行う。	100%	100%	A	今後も授業参観による相乗効果をはかる。
		「キャリアアップ講座」に参加した教員と市立高校の教科群研修に参加した教員による校内研修会を実施し、教科指導・生徒指導・進路指導等、様々な分野について他の教員にフィードバックする。	2学期に校内研修会を行う。	100%	60%	C	B 德育の「偉人伝の授業研究」を優先した結果、校内研修会を実施できなかったため、研修報告の冊子を作成する。
		教務部を中心に教科会と協力し、新任研修授業、研究・公開授業を実施する。また、德育推進プロジェクトと連携し、夏季職員研修において全職員で「德育」に取り組み、年度内に德育での研究授業を行う。	「偉人伝」徳目毎の教材の完成	100%	100%	A	「偉人伝」授業を行いながら、徳目ごとの教材を改良していく。
	出席率の向上、退学者の減少	授業態度改善のためのアンケート調査を行い、生徒集会・保護者会を実施する。 出席不良、成績不良による保護者会をそれぞれ実施	出席不良、成績不良による保護者会をそれぞれ実施	100%	80%	B	来年度も引き続き行っていく。
生徒指導	5Sの徹底	美化点検を担任と美化委員により行い、客観性の高い評価を行う(5段階評価)。 授業前には教科担任から机上の整理、机の整列、教室の環境整備の指導を行う。	美化点検平均点 4.7/5 以上	100%	80%	B	今年度は各クラス平均4.8以上を維持することができた。来年度は平均4.8以上を目指す。
	挨拶の励行	挨拶週間の強化を行い、生徒の意識を高めていく。SIMを定期的に開催し、生徒自ら挨拶向上のための取り組みを考えさせる。	1年間を通して全校生徒が挨拶を行える。 式や集会などで大きな挨拶ができる。	100%	70%	C	意識は向上してきたが、まだ部活動生や一部の生徒のみである。生徒会を中心に活動内容を検討させ、SIMを中心としつつ相乗効果を発揮させていく。
	遅刻生徒の減少	個人に対する指導とともに、クラス全体での遅刻減少に取り組みさせる。	遅刻回数3.5回/人以下	100%	100%	A	B 遅刻回数2.9回/人 来年度は各分掌による段階的な指導を行っていく。
	自転車通学生徒の指導	安全講話を実施し、全校生徒に自転車の運転マナーについて理解させる。 自転車通学希望生徒は、保険加入を条件として通学許可を出す。	自転車通学生徒全員の安全保険への加入	100%	80%	B	安全保険への加入率100% 道路交通法の改正により、更なる意識向上を図っていく。
	部活動生徒の加入率の増加	体験入り部1日目に卒業生を招き、部活動の意義を伝えてもらう。 体験入部後アンケートを取り、中学時代の部活動加入率や興味のある部活動をデータとして把握していく。	部活動加入率50%以上	100%	100%	A	今年度の加入率は52%と大きく向上させることができた。 今後、文化部の活性化を中心に、学校を盛り上げていく。
進路指導	希望進路の実現	来年度に配布するための進学のおしおりに製作する。また、夢工房ノートを用いて学年毎に進路計画を立てさせて、3年間で1冊が完成するようにする。	進学のおしおりの完成 夢工房ノートを用いた進路指導を行う	100%	70%	C	進学のおしおりと夢工房ノートの内容が重複するところや、各コースで内容を精査する必要がある。
	進学先の確保	指定校推薦枠の増加、新規獲得を行う。	指定校推薦枠5名以上増加	100%	80%	B	B 生徒の動向を見据えて、指定校推薦枠の増加を行っていく。
	就職先の確保	実績のある会社との連携強化と新規開拓のために、企業訪問を増やす。	学校斡旋による就職率100%	100%	100%	A	来年度も企業訪問を行い、自己就職、縁故就職を減らしていく。
総務・広報	体験入学の円滑な運営	興志館を中心とした体験入学を企画。 企画・広告により参加者の増加を計る。	体験入学参加者2000名	100%	100%	A	参加者2102名 来年度は更なる参加者の増加を計る。
	情報発信の充実	ホームページの更新の頻度を上げる。	ホームページアクセス回数月800以上	100%	70%	C	B ホームページの内容を充実させる必要がある。学校新聞を作成し、外部に発信する。
	リサイクル運動の充実	職員への働きかけを行い、古紙回収を意識づける。	古紙回収の完全実施	100%	80%	B	職員の意識は高まってきている。生徒の古紙回収の意識を上げていく。

平成26年度 学校自己評価表 4段階評価(A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

自己評価 評価基準
 A:達成できた(A=100%) B:ほぼ達成できた(80%≦B<100%)
 C:もう少し(60%≦C<80%) D:できていない(D<60%)

評価計画		自己評価			改善方法		
評価項目	年度重点目標	具体的方策	評価項目・指標	目標値	達成度	評価(3月)	次年度の主な課題 改善方法
興志館	朝・夕課外の授業改善	朝課外のモジュール型授業の展開 (英語スキルアップ/言語スキルアップ) コミュニケーション能力を育成するために、話せる英語を めざし、毎朝月～金の20分間を外部機関と連携し、ネイ ティブ講師との英語スキルアップとして実施する。	ネイティブの発話を通し て、話す・聞く・書き取る 能力が向上する。	100%	100%	A	来年度は言語スキルアップの充実をはかる。
		夕課外の講座制授業の導入 3月の模試の結果を基に、生徒の弱点補強や進路目標 に応じた、学年枠(1、2年)を取り払った講座制を導入す る。3年生は2グループに分けて実施する。	講座制の持ち方を考 え、実施する。	100%	80%	B	生徒の自己学習力を高めるため、受験サプリ・クラッ ション等を用いて日々の指導に役立てていく。
	学年部の機能を活かした分掌 等の指導体制の確立	各学年の担任・副担任で興志館学年部を形成し、学年 の生徒を学年の教師集団で学習状況や模試分析、進路 指導を協議し行うようにする。	議題を提示し、学年部 で協議し生徒の実態に 応じて工夫を行う	100%	90%	B	来年度はコース別の縦クラスの実態に応じた指導・ 対応を行っていく。
	3か年を見通した「興志館 キャリアプラン」の作成	興志館生徒の土曜講座・進路指導を一体化し、生徒の 発達段階に応じて進学意欲・志を興すことを実現できる 「興志館キャリアプラン」を興志館所属の進路指導部 員で計画・立案を行う。	進路ガイダンス・大学ガ イダンスを含めて計画 的に配置し、「興志館 キャリアプラン」の試案 が完成する。	100%	100%	A	来年度以降、「興志館キャリアプラン」に基づいて、 進路指導・生活指導を行っていく。
看護	見えない学力の向上 縦割り班活動の生徒運営 の確立	縦割り班活動の充実を図る。	上級生から下級生への 技術・レポート指導を確 立する。	100%	100%	A	リーダー集会の定例化
		能率手帳を活用する。	毎週全員提出	100%	80%	B	活用できるようになるまで継続的に指導する
		挨拶の徹底	全員挨拶	100%	80%	B	更なる継続的な指導が必要
		出席率99.7%以上を目指す	出席率99.7%以上	100%	100%	A	更なる継続的な指導が必要
	部活動加入率50%以上を目指す	部活動加入率50%以上	100%	100%	A	来年度は55%を目指す	
見える学力の向上 基礎学力の向上 国家試験100%合格	普通教科担当者会議の実施 校外も詩の結果をデータ化し、分析する。 国家試験対策の見直しと改善	戴帽試験不合格者0名 進級試験不合格者0名 国家試験100%合格	100%	90%	B	看護学生として必要な文章力、表現力、コミュニケ ーション力の向上をはかることを念頭に置き、各教科 ごとの到達目標・授業計画・評価基準を検討する。 来年度も国家試験100%合格を目指す。	
第1学年	基本的な生活習慣の確立	遅刻・欠席・怠学などの状況や原因を把握する	出席率98.9%	100%	100%	A	来年度はコース別の実態に応じた指導を行って いく。
		挨拶及び敬語の励行	全員が挨拶を自ら行え るようにする。	100%	70%	C	更なる継続的な指導が必要
	基礎学力の向上	家庭学習の習慣化を図る。宿題を課し、必ず提出させ る。	提出物100%	100%	100%	A	提出率が落ちないように継続して指導していく。
		正課授業への真摯な取り組みを指導する。	学年末平均点60点以 上	100%	100%	A	来年度も継続して指導を行っていく。
	豊かな人間性の育成 KANDU(感謝・挨拶・忍耐・努 力・思いやり)の実践	部活動や学校行事へ積極的に参加させる。	部活動加入率50%	100%	100%	A	退部する生徒が出ないように指導を工夫していく。
一日の振り返りを毎日行わせ、日記を書く習慣をつけ させる。	毎週全員提出	100%	70%	C	来年度も継続して指導を行っていく。		
第2学年	基本的な生活習慣の確立	服装・頭髪違反をなくするため、生徒指導リストを活用して 指導回数が多い生徒を集めて指導を行う。	頭髪服装検査による出 席停止0名	100%	100%	A	来年度は最上級生の自覚と進路意識を持たせるよ うに指導していく。
		靴のかかとを踏ませないために、下足箱での検査を行 い、違反者は指導を行う。	かかとを踏む生徒が極 端に少なくなるようにす る。	100%	90%	B	ほとんどの生徒がかかとを踏まなくなっているの で、特定の生徒に継続して指導していく。
	眉の指導を行い、違反者はリストアップして定期的に行 う。	学年末での眉毛違反者 0名	100%	70%	C	特定の人物に限定されてきているので、来年度以降 も継続して指導していく。	
学習習慣の確立	基礎学力をアップさせるために、7限目の基礎力講座を 真剣に取り組ませる。	無断帰宅0名 取り組む姿勢の向上	100%	100%	A	学習習慣が向上しているの で、継続して指導して いく。	
第3学年	基本的な生活習慣の定着	挨拶及び正しい言葉遣いの励行のために、クラスでの リーダーを育てる。挨拶週間を利用して、学校全体の環 境を作る。	率先して挨拶が出来る 生徒5割以上	100%	60%	C	率先して挨拶が出来るよ う、気持ちの良い雰囲気作 りと朝の挨拶運動を継続して いく。
		清掃指導を徹底し、一人ひとりの役割分担を行う。また、 教員が率先して掃除を行い、模範を示す。	率先して掃除ができる 生徒8割以上	100%	90%	B	クラス別の取り組みになっ ているので、統一した指 導を行っていく。
	基本的な学習習慣の定着	習熟度に応じた課題を定期的に出し、その課題を基に 復習をくり返す。	課題提出100%	100%	80%	B	学年間での情報の共有を行 い、教科担任に任せ きりにならないようにす る。
	希望進路への挑戦	体験入学、オープンキャンパス等に参加させ、レポートを 提出させる。就職希望者は仕事に関する調査のレポート を課す。	課題提出100%	100%	100%	A	クラス担任に任せるので なく、学年間で情報の共 有、協力を行っていく。